

北海道林業試験場

野幌國有林内の動物調査書

北海道林業試験場

野幌國有林内の動物調査書

本報告は北海道廳囑託北海道帝國大學教授
農學博士犬飼哲夫をして調査せしめたる結
果にして參考に資するものあるを以て茲に
印刷に附す

昭和九年七月

北海道林業試験場

野幌國有林内の動物調査書

目 次

緒 論	...	1
應用動物學上から見た野幌國有林の意義	...	2
魚 類	...	3
兩 棲 類	...	5
爬 蟲 類	...	6
哺 乳 動 物 (獸類)	...	7
鳥 類	...	11
野幌國有林内及びその附近に於ける鳥類目錄	...	15
鳥類繁殖狀況	...	22
林内に於ける巢箱	...	32
和 名 索 引	...	35
學 名 索 引	...	38

野幌國有林内の動物調査書

緒 論

北海道の開拓は既に六十餘年の歴史を閲し千古斧鉞の跡を見なかつた全道を蔽つてゐた、鬱蒼たる大森林は薙ぎ倒す如くに伐り開かれて、山岳地方を除いては昔の北海道を偲ばしむる原始林は殆ど現今では見られなくなつた。斯かる時に開墾の濫觴の地であり、且最も進歩した石狩平原の一部に野幌國有林が原始林を併せ存在することは、各方面に於ける林業の基本試験を最も徹底せしむることは言を俟たないが、森林動物の研究にも最も便宜且效果的である。現時森林有害動物の驅除に歐米各國が苦しく目覺め或は人工的に或は天敵利用法を併用して研究が着々進められ、産業の興振を講じつゝあり、この時に野幌國有林の如き廣大なる森林を有し、凡ゆる研究の機會を提供してゐることは誠に邦家産業の爲め有意義なことである。余は今回林務課長、新島前林業試験場長、石原現試験場長並びに原田技師等の御厚意と御援助により、未だ研究充分ならざる野幌國有林内の動物を調査し得たことは甚だ感謝に堪へない。茲に上記諸氏に萬腔の謝意を表し併せて種々御便宜を賜つた場員諸氏、及び北大動物學教室助手武笠及び佐藤兩學士にも謝するものである。殊に同教室池田眞次郎君が鳥類の大部分の觀察に當つたことは筆者の甚だ感謝に堪へないところである。

然し乍ら野幌國有林は目下禁獵區である關係上調査充分ならざるものあり、従つて動物生態學的調査に偏重する傾向があるのは、止むを得ないことである。又次に本調査の本格的着手は昭和九年三月以降のことであるから、以前に着目してゐた事實に、諸氏の調査を参照して茲にその一部を發表し他日の完成を期するものである。

昭和九年六月

犬飼哲夫

應用動物學上から見た野幌國有林の意義

世界各國に於て人口の増加と文明の進歩に伴ひ未開の地は忽ちに豊饒な耕地となり、或は化して終日日光を仰ぎ得ない工場地となり、天然の風光は日を遡ふてその全貌を變へつゝある現今、人間はその本性が楽しむ自然を奪はれた寂寥を感じ、同時に自ら原始の面影に著しい愛着心を持つ様になつて來た。斯かる方面から見ても呵責ない文化の風潮を堰き止める可き保護された自然設備は甚だ有意義なことである。然し乍ら一面に於いて急激に發達した物質文明の極と、限りなき資源の開發は直に農林業に於いては害蟲の勃頭、病菌の跋扈となり收拾すべからざる惱ましい姿となつて、自ら仇なす一大恐慌を醸す状態が各地に出現してゐるのである。これ皆人爲を以て不調和に破られた自然界の均衡の痛ましい殘骸である。これが爲め北海道の夏を見舞つた僅かな寒冷は過去に於いて全道の大凶作を惹起し、然らざる時でも或は水稻の泥負蟲と云ひ、甜菜の夜盜蟲、褐斑病、亞麻の立枯病、植林地の野鼠等、これが對策のため往々産業興振策は即ちこれ等害敵との争闘に終るの徒勞を敢てしなければならない。米國ニュージャーシー洲の一角に現はれた取るに足らなかつた豆コガネは數年間に於いて既に近隣の各洲に蔓延し遂には如何なる草木をも食害し、今や全米を擧げての恐慌を起してゐることは決して對岸の火災視出來ないことで、茲に於てか自然界夫自身の根本的研究は、一見甚だ積極的に見へる産業施設よりも屢々重要性を帯びてゐることは現實が指示してゐる事實である。

野幌に於ける國有林は多分に原始林を混入して、本道林業上の各種の重要な根本研究に備へてゐるのであるが、一般に保護林は野生有益鳥類の誘致蕃殖惹いては有害動物驅除に最も有效であることは既に諸外國に於ても實證されたことで、更に進んで野生鳥類に人工巢箱を與へ或は人工給餌をなして積極的保護をなし、効果を大にしたことは、幾多の實驗が示すところで、この點からも本國有林はこの方面の研究を徹底せしむるものである。

斯くの如く保護林の設置は一般に各國の産業發達に必要なことは明白であるが、北海道は氣候風土が特殊状態にあり別してその必要を痛感するのである。即ち歴史が物語る如く嘗てはアイヌ狩獵の地であつた鳥の國、動物の地であつた北海道が斯くも慌しく昔の面影を失つたのはこの關係で、これ冬期に於ける嚴寒と積雪の致すところである。獸類は深い積雪により行動の自由を缺き且その足跡により容易く追撃される。冬期に於ては如何なる深山溪谷も獵師にとつては平坦な野と化し、貂、獺、鹿等の重要狩獵獸は瞬く間に絶滅に類した。鳥の中のエゾヤマドリの如きも同じ運命にある。この特別な状態に於ては普通の保護法によつては野生動物の保護の完全を期することは出來な

い。野幌國有林の存在はこの意味から見ても重要である。他方に於て、有害獸の野兎、野鼠の食害も多く積雪期に起り、他の地方とは又異つた状態にあり特殊研究を要し色々の意味で本國有林の興へる恩恵は決して少くない。

因に野幌國有林の地勢概況を記せば總面積は 3426,630 ヘクターで内 320,520 ヘクターが天然記念物として三箇所に分れて存在してゐる。江別町及び廣島村の二箇町村に跨り、一部は原野に接し大部分は農耕地に包圍され、中央に南北に縦走する低き丘陵をなす分水嶺があり、溪流を分派してゐる。林縁に近く東側に灌溉用として貯水池が數箇ある。針葉樹多く主としてトドマツで潤葉樹が混生してゐる。概して云へば高乾の地に針葉樹、低濕地に潤葉樹が多い。下地にはチマキザサ、ネマガリザサの密生してゐる所が多い。他の下草は比較的少い。然し濕地には身を没するものが密生してゐる。冬期嚴寒の頃と雖も密林をなす故に林内は平溫で多數の動物の好避難地となるのである。

以下記するところに於ては専ら脊椎動物の主なるものに就き、今迄になした生態的觀察を述べようと思ふ。

魚 類

野幌國有林中に源を發する溪流は數多いが何れも小川に過ぎない。近年附近の農耕地の灌溉用として、數箇所に豊富な水量を有する貯水池が設けられたが、夏期は殆ど枯渴する迄水を利用するから、概して云へば魚類の棲息に適するところが少い。種類も少く次の様な數種を採集し得たのみである。

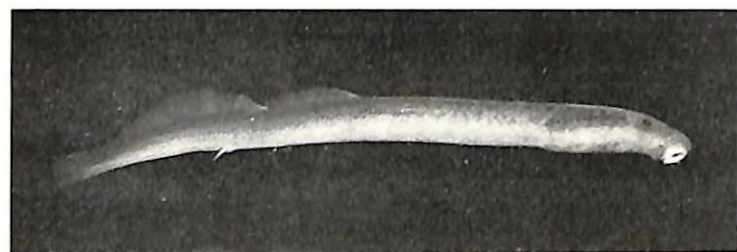
スナヤツメ *Lampetra mitsukurii* Hatta



1. スナヤツメの湧る大澤の川この附近には常にアカショウビンが棲息する

春四、五月には國有林中の小川に多數に群つて溯行して來るヤツメで、長さは20センチ位のものが多し。清流の砂地を撰んで雌雄相集つて産卵し、孵化した幼魚は始め砂泥中に潜みそのまま越冬することもある。その産卵期頃國有林に棲む鳥類のアカショウビン等は多數のヤツメを食してゐる。本邦では到るところの溪流に見られるヤツメである。

(4)



2. スナヤツメの雄 (1/2大)

エゾドチヨオ *Lefua nikkonis* (Jordan & Fowler)

4センチ位の小形の泥鰌で数は少い日本々土のホトケドジョオの一種である。鬚は8本ある。



3. エゾド
ジョオ
(實物大)

フクドチヨオ *Oreias oreas* (Jordan & Fowler)

大形の泥鰌で大なるものは15センチ位に達する。北海道及び樺太の河川に極めて多い。鬚は6本。



4. フクドジョオ (1/2大)

フナ *Carassius auratus* (L.)

石狩平原到るところの淡水に多く棲息する。野幌國有林内の河及び貯水池にも居るが餘り多くはない。

イトヨ *Gasterosteus aculeatus aculeatus* (L.)



5. イトヨ (1/2大)

大いさ8センチに達する脊面に二本の長い棘を有するトゲウヲで四月上旬に群をなして、河川に海から溯り沼等の浅所又は流水の緩徐な所に營巢産卵し、産卵後は雌雄共斃死する。昭和八年四月上旬には近村の廣島村等では小川はこの魚で充滿

(5)

する奇觀を呈し、村民は捕へて乾燥し鶏の餌料となしたことがある。

エゾトミヨ *Pungitius tymensis* (Nikolsky)

イバラトミヨと共にこの附近の河川、池沼に棲む小形のトゲウヲで短小な脊棘が8—13本有り、流水の緩かなところに春營巢して産卵する。

兩棲類

函館附近に産するヒキガヘルを除けば北海道内に棲息する兩棲類は皆野幌國有林中に居る。即ち次の三種である。

エゾサンセウウヲ *Hynobius retardatus* Dunn



6. エゾサンセウウヲの雌(左)雄(右) (1/2大)

北海道内に棲む山椒魚の一種で體長は14センチ位で、平地にも高山の上にも到るところで發見される。春の融雪後直に冬眠から覺めて、薄氷の張る頃でも森林中の水溜り、道路側の溝等を集り2本の長い太紐狀の卵囊に包まれた卵を産む、然し流れの速い河川等には産卵することはない。卵は一ヶ月位でオタマジヤクシになり卵囊から脱け出て自由に泳ぎ廻り秋には變態を終り、小さい山椒魚となつて水邊を離れて森林中に四散する。稀にはオタマジヤクシの儘、越年するものもある。山椒魚の食物は昆蟲類、ミ、ズ等の小動物で、日中は日蔭に隠れ、雨の日や夜中出て食を漁り、又よく土中にも潜行し耕作中に土の中から得られることがある。野幌國有林中には他に比較して、この山椒魚が割合に多い。



7. エゾサンセウウチの卵塊



8. エゾサンセウウチ、蛙の産卵する森林中の水溜

エゾアカガヘル *Rana temporaria* L.

北海道、樺太、沿海洲に広く分布してゐる赤蛙で、春、エゾサンセウウチより少々後れて、同じ様な水溜りに産卵する。卵塊は拳大に一塊をなし、オタマジャクシは七月下旬には變態を終り小さい蛙となつて水邊を去る。森林中到處に棲息し、草原や農耕地にも少くない。アカガヘルは食物は悉く生活中の小動物で、夜盗蟲等の昆蟲類が主として食せられる。一匹の蛙は一年に400匹以上の昆蟲を食つて生活してゐる有益動物である。(札幌農林學會報大正十四年七十號犬飼、蛙の食性報告参照)

アマガヘル *Hyla arborea japonica* Guenther

アマガヘルは林中にも棲息するが、主として林縁に近い溜水や水田に五月中旬頃から現はれ七月上旬迄長い期間に亘り産卵をなす。この蛙は周囲の色彩に依つて自己の體色を變じて潜み、多くの昆蟲を食する有益動物である。

爬 蟲 類

爬蟲類は兩棲類と等しく何れも食肉性で、森林の害蟲の驅除を助ける。又、蛇類は野鼠の天敵である。

カナヘビ *Takydromus tachydromoides* (Schlegel)

褐色の尾の長いトカゲで國有林中では少々乾燥した日當りのよい箇所にて棲息してゐる。五月に交尾し、落葉の下、草の根本等に産卵し七月に孵化する。数は餘り多くない。

トカゲ *Eumeces latiscutatus* (Hallowell)

幼體は特に毒々しい青色を帯びたトカゲで本國有林には稀に見得るのみである。

アヲダイシャウ *Elaphe climacophora* (Boie)

野幌國有林中何處にも棲息する爬蟲類中最も多い種類で屢々大形のものがあり長さ2米に達し、木に攀じて小鳥の巢を襲ひ或は昆蟲を食ひ又好んで野鼠を食ふ。然し蛇の食ふ野鼠の数は元來が冷血動物で生活力が鈍いから肉食獸、猛禽類に比較すると遙かに少い。

シマヘビ *Elaphe quadrivirgata* (Boie)

アヲダイシャウより少々小形の長さ1米内外の蛇で、脊面には褐色の地色に4條の黒褐色の縦線がある。性質は敏捷である。野幌には前種に比較して少い。この黒色の變種は一名カラスヘビとも云ふ。

チムグリ *Elaphe conspicillata* (Boie)

脊面は赤褐色で俗名アカヘビと稱し、好んで土中に潜行して昆蟲、ミ、ズ、野鼠を食ふ。殆どシマヘビと同大である。稀に發見される丈である。

マムシ *Ancistrodon blomhoffii* (Boie)

北海道に産する唯一の毒蛇であるけれども野幌國有林中には極めて少い。

哺乳動物 (獸類)

昔石狩平野に多數に棲息してゐた鹿、貂、獺、狼等の中で既に絶滅した狼、又現在では中央高地日高山脈等にしか居ない前記三種は勿論野幌には棲息しない。熊は往々別官林に姿を現はし、又昭和五年から三ヶ年ばかり續けて毎年五月頃31林班から東三號線邊を徘徊してゐたが現在は見ない。その他の獸類は國有林の周圍が開墾地である故か森林の割合に種類も數も少い。獸類の中には勿論有害な野鼠も含有するが、北海道内各地で驅逐された動物が此處を最後の避難所としてゐる感があるから、徹底的保護により少々現在よりも重要な種類は増加し得ると思ふ。この森林に棲む獸類を

挙げれば次の如きものがある。

1. エゾヤチネズミ *Clethrionomys rufocanus bedfordiae* Thomas



9. 林外の燕麥畑に残るヤチネズミの通路

頭部が比較的圓味を有し體長10センチ尾は短く約體長の半分で、脊面は黒褐色の鼠で草原地、牧草地、畑地、笹原等に住み土中にトンネルを穿ち、積雪の下にても草木の根を食害する。草原地では雪の下で草の根を食いつゝ通路を作つて進行し融雪後にそのトンネルを到る處に發見する。然し概して大木の繁茂する森林中に棲息するものは少い。

2. ハツカネズミ *Mus molossinus* Temminck

野外では好んで種子を食ひ、小動物も食ふことがあり、冬期は人家に入つて家鼠となる。

3. エゾヒメネズミ *Apodemus geisha hokkaidi* Thomas



10. 雪中にてヒメネズミの樹皮を食害した跡

國有林中の草原、笹原又は農耕地に棲む廿日鼠大の尾が體長よりも長い鼠で、冬期には屢々雪の中から表面に出で來り、長い尾を巧みに捲みて倒木に登りて樹皮を食ひ、或は細い灌木に攀じてその實を食ふこともある。又生木の木皮、種子をも食ふ有害動物で人家に入ることもある。往々群をなして移行することがある。

4. ドブネズミ

Rattus norvegicus Erxleben

家鼠として人家にも巢食ふ大形の鼠である。野外にあつては他の野鼠の様に大舉して食害することはないが、性獐猛で殆ど肉食獸に等しい習性を有する。河川中に潜つて魚類を食ふことがあるかと思へば、野鳥の巢を襲撃して、卵や雛を食ひ、且農家の鶏舎に入り一時に多數の雛を食ひ荒すこ

とは屢々見られる。野幌國有林中では小川の邊でよくこの鼠に出會する。

5. エゾリス *Sciurus*

vulgaris orientalis Thomas

北海道の深山にはこの栗鼠は未だ相當に多く棲息するが、石狩地方には非常に少い。國有林中では近年になつて稍々屢々發見されるから増殖してゐることゝ思はれる。灰黒色の愛らしい動物で時々林道に出て來る。食物は種子、果實、穀果、木の葉、芽等であるが森林の害になる程ではない。



11. 雪中のリスの足跡

6. エゾモモンガ *Sciuropterus russicus orii* Kuroda

體長15センチ位の小形のモモンガで俗にバンドリと云ふ。野幌國有林中には北海道内の各地に比べて特に多數に棲んでゐる。その毛皮は殆ど利用價值がないため、餘り捕獲されなかつたから道内には未だ相當に多い。食物は種子、果實、木の芽等であるが有害とはならない。冬期中は國有林中に架設した鳥の人工巢箱中に入るものが可成り多く、又春この巢箱中で巢を営み仔を産することもある。林内では猛禽類や肉食動物の好餌食となり四季を通じてよくその殘骸を發見する。



12. エゾノウサギの雪上の足跡

7. エゾノウサギ

Lepus ainu Barrett-Hamilton

北海道内の原野、山岳、森林と何處にも多數に居る兎である。夏期は褐色で冬期は耳先に黒斑を残して、白化する。この兎は夏期には各種の草木を食してゐるが冬期積雪の候になると山岳地方では好んで笹の青葉を食ひ、ガンピ、タラノキ等の細枝を食つてゐるが雪の上を自由に走り、植林地に出て落葉松の枝を噛み切り且幼樹を食ひ、樹皮を剥ぎ取り枯死せしめ大害を見るにことが少くない。その上夜間民家附近に現れ各種の果樹を食害し野鼠に劣らない有害獸である。

8. エゾトガリネズミ *Sorex shinto saevus* Thomas

體長7センチ位で尾は體長より短い所謂モグラと稱せられゐるものである。食蟲類に屬する動物であるから、多數の昆蟲その他の小動物を食ひ有益である。性は慓悍で冬期は野鼠の坑道に入りよくこれを斃して食ふ。多く野鼠の穴等を利用して地中に棲み、夜出て食を漁り、往々人家に入ることがある。

9. キツネ *Vulpes japonicus* Gray

野幌國有林中には雪の上の足跡や食物の殘骸、糞等により少數棲息して居ることを知る。野鼠、小鳥、昆蟲その他の小動物を食用とし、多數に住めば野鼠の天敵として有効であるが毛皮獸として捕獲されるので、北海道内には非常に少くなつた。



13. 狐が夜出て食ひ残したヤマシギの羽毛、嘴、脚等



14. ヤマシギの殘骸のあつた附近

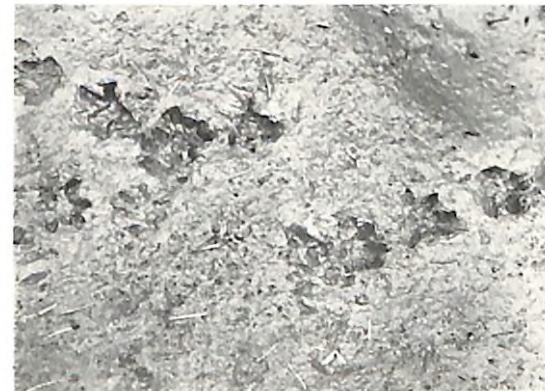
10. エゾタヌキ *Nyctereutes albus* Beard

俗に北海道内でムデナと稱する動物で、果實等の植物性食物を攝取するが昆蟲、カタツムリ等の小動物、鼠、小鳥等も食ふ。近年この毛皮が著しく高價を唱へ旺に捕獲されて非常に少くなつた。冬は岩窟、木の洞穴等を利用して棲息し秋晩く籠居し春早く出て歩くため雪の上に残した足跡を追跡されて或は隠家より外に出て脱糞するため容易く捕へられる。特に犬を利用する場合發見が容易で、銃器なくして簡単に獲られる。野幌國有林内には以前は多數に棲息してゐたが、今は僅に天然記念物たる原始林に居るのみである。

11. イタチ *Mustela itatsi itatsi* Temminck

イタチは六十年ばかり前に本土から偶然北海道に移入されたものであるから、野幌地方に始めて

現はれたのは大正三、四年頃である。イタチの習性として川筋を歩き、歩道、線路等をも往復するから、國有林内でも夏冬共澤の中や歩道にはイタチの足跡がある。小動物の昆蟲、ミ、ズ、蛙等を食するが、野鼠の苦しい天敵であることは農林省囑託岸田久吉氏の研究及び犬飼の研究報告によつても明かである。冬期は人家或は暖い物蔭に簡単な巢を作り日中はそこに潜んでゐる。北海道内ではイタチを除いては有力な野鼠の天敵は外にない。



15. 林内歩道を歩いたイタチの跡



16. 夏冬イタチ類の足跡の絶えない大澤

12. エゾイタチ 13. 及びコエゾイタチ *Mustela erminea kanei*

(Baird) 及び *Mustela rixosa namiyei* Kuroda

何れも冬期は白化するイタチの種類で、肉食獸で害蟲、野鼠の驅除には有力であるが数は少い。前者は夏冬長い尾を有しその先は黒色であるが後者は尾は非常に短く體色と變りない。

鳥 類

野幌國有林内に棲息する最も顯著な動物は鳥類である。山田農學士は嘗て昭和六年四月から九月迄林内の鳥類を調査したことがある。余は昭和八年八月より調査を開始し現在も引續き調査中であるが、本年六月迄に得た結果に山田學士の研究を参照して此處に報告しようと思ふ。

野幌國有林に居る鳥類は大體に於て札幌附近に棲む鳥類と異なることがないことは言ふ迄もないが、種類の豊富なこと及び数の多いことは他に比



17. 融雪期にアナザ、ヒタキ、マヒワ、マシコ等の小鳥が求餌及び水浴に集るところ



18. 各種の水禽の集る林内の水溜り

である。鳥類の季節的消長は未だ発表の域に達してゐないが、四季を通じて、林相により棲む鳥の種類が定ることは殆どない。概して言へば鳥類は林内一様に分布して何處にも見られる。但し一般にカラ科の鳥は、針葉樹林に集り、雁鴨目は貯水池及び澤に棲み、燕雀目の中には雲雀の如く畑地に又、オホヨシキリの如く林外の村落近くの濕地に居る等数種が農耕地に限られてゐる。一年を通じてカラ科、啄木科、鳩科等の鳥が多く、繁殖期

類を見ない。夏期の繁殖期にはこの森林は宛も附近の鳥類を悉く集めた動物園の感がある。これこの國有林が廣漠たる石狩平原中の唯一の常緑林であり、廣い農耕地に囲まれてゐること、禁獵區で鳥類安住の地であることに因ることは明かである。山田學士は62種の鳥類を見て居るし、余も又今迄に主として林内歩道及び澤を中心にして觀察した結果のみで13目、26科、73種の鳥類が棲息することを確め、猶多數の種類をも發見し得る豫定

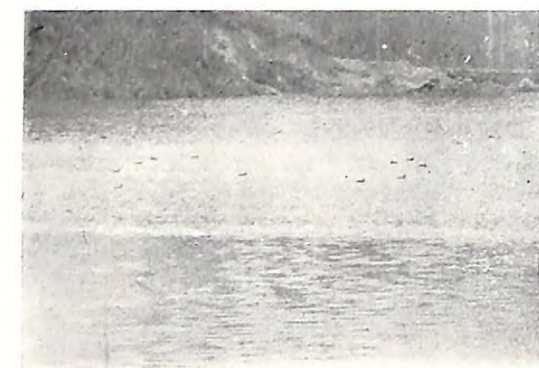


19. 水禽類の集り繁殖する貯水池

には種々な鳥が林内一面に營巢育雛してゐる。是等の鳥類によつて捕食せられる森林及農作物の害虫は恐らく夥しい數に上るであらう。

野幌國有林は既述の如く、原始的古林に富むを以て各種の鳥類の繁殖地となり、又林内に不凍水あり、夏期に於ては特に野鳥の求水及び水浴に適する大小の水溜りを生じ鳥類誘致に對して天恵の地である。

近時設けられた貯水池には、附近の狩獵地から



20. 同所に群る水禽

脱れて集る水禽が多く、春秋の渡りの頃は寧ろ壯觀を呈する、主なる水禽は本春はコガモ、マガモ、オシドリ、アイサ、カイツブリ等であつた。

鳥類は繁殖期に於ては普通植物性食物のものも食蟲性となり、農林省の研究報告に依れば、雀で

さへ總體的に見て有益鳥類の中に入ることが明かにされたのであるが、元來が食蟲性の鳥類でも多少は種子、穀物等を啄むものである。例へば椋鳥が果實を食ひ、シジュウカラの食餌の12%は松の實であることは小島俊文氏の研究によつて示された。この外、國有林内には多數に植物性食物を攝取するマヒワ、カハラヒワ等が棲息するから、播種期には特別に鳥類に對する防衛設備を要する。林業試験場はこのため樹枝或は金網を用ひて、種



21. 種子及び幼樹を保護する金網

子の保護をなしてゐる。

又林内より農耕地に出て作物を食害する主なる鳥類は秋期に貯水池で繁殖し、又他より集つた鴨の類で水田を荒し毎年國有林小作人からその捕獲申請をなしてゐる。收穫期に於けるハシボソガラス、カケスの食害も相當にあり、往々是等の鳥類は鷹類と共に農家の家禽をも襲ひ、又林内に多數に繁殖してゐるキジバトは近村に出て畑地を荒し播種期には大害を見ることがある。



22. 秋から冬にかけてカケスに啄まれた玉蜀黍

然しこれとは反對に林内より農耕地に出て害虫を食ふ鳥は無數で、繁殖期以外例へば冬期に於ても啄木の如く林外に活動するものが少くない。

所謂冬の留鳥として二月、三月中に林内で實見した鳥類も相當多數に上り、セグロセキレイ、シメ、ムクドリ、マヒワ、ツグミ、エゾアカゲラ、エゾコゲラ、クマガラ、ヤマゲラ、エゾオホアカゲラ、シジュウカラ、シロハラゴジュウカラ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シマエナガ、ミソサザイ、エゾヒヨドリ、ツグミ、スズメ、アトリ、ミヤマカケス、ハシボソガラス、ハシボソガラス、キジバト、エゾライテフ、トビ等で、種類は不明であるがフクロフの類がある。植物性食物と見られるアトリ、ヒワ等はカツラ、白樺等の潤葉樹の芽や、樹木の種子を食ふ。



23. ヤマゲラ、アカゲラ、コガラ、シジュウカラ等の林外求餌地



24. 農耕地の切株に食を求む
るエゾホアカゲラ

間であつて、その頃又最も多数の鳥の囀鳴するのを聞く。トラツグミ等は夜中にも鳴く。

野幌國有林が以上の様に鳥類の樂園の如くであるが、これを中心として周囲の林にも又比較的多数の鳥類が棲息してゐる。例へば鐵道防風林の中でさへ(落葉松とドイツタウヒの混淆林で下草はチマキザサ、ネマガリザサ) アヲヂ、ホホジロ、アカハラ、キジバト等が繁殖してゐる。

是等の鳥類は寒氣と吹雪を避けて此處に集るもので、何れも林縁近くに棲む傾向があり、融雪を待つて林外の農耕地、道路に集り、或は林内の馬楯道に出て食を漁る。この時馬糞等にも多数に集るのを見ることがある。

一年を通じて林内で鳥類が最も多数現はれるのは未明から午前九時頃迄と、日没直前一時間位の



25. 留鳥や早い渡鳥の食を求めて集る
林内道路

野幌國有林内及びその附近に於ける鳥類目録

この種類の同定は双眼鏡等により観察したものと、附近で採集されたものとを對照してなしたのである。

燕雀目 Passeres

鴉科 Corvidae

ハシボソガラス *Corvus corone corone* Linnaeus

四季を通じて棲息、少数、雑食性。

エゾハシブトガラス *C. coronoides japonensis* Bonaparte

四季棲息、極めて少数、悪食性。

ミヤマカケス *Garrulus glandarius pallidifrons* Kuroda

四季棲息、多数、主として植物性食なれども、他鳥の卵及び雛を襲ふ。

椋鳥科 Sturnidae

ムクドリ *Spodiopsar cineraceus* (Temminck)

四月一十一月、多数、越冬するものがある。昆蟲を食ふ益鳥。

コムクドリ *Sturnia philippensis* (Forster)

四月一九月、ムクドリより少数、昆蟲を食ふが、果實も食ふ。

雀科 Fringillidae

シメ *Coccothraustes coccothraustes japonicus* Temminck & Schlegel

四月下旬、少数、夏期は昆蟲を食するが、穀物、種子、木の新芽を啄む。

イカル *Eophona personata personata* (Temminck & Schlegel)

六月一十月、少数、主として穀物、種子、木の芽等を食ふ。

オホカハラヒワ *Chloris sinica kawarahiba* Temminck

三月一十月、稍多数、植物性食物。

マヒワ *Carduelis spinus* (Linnaeus)

三月一十一月、冬期でも群棲するものあり、種子及穀物、木の新芽を食ふ。

ベニマシコ *Uragus sibiricus sanguinolentus* (Temminck & Schlegel)

四月中旬に少数を見る。草の實、種子、蕾、芽を食ふ。

ウソ *Purhula pyrrhura griseiventris* Lafresnaye

十月中旬に特に多数群る。種子及穀物食。

イスカ *Loxia curvirostra japonica* Ridgway

五月中旬に群棲するのを観察、種子及穀物食。

アトリ *Fringilla montifringilla* Linnaeus

二月及十月に小群を見る。松の實、種子、木の新芽を食ふ。

スズメ *Passer montanus saturatus* Stejneger

四季棲息、主として林縁に棲む。種子及穀物食。

アヲジ *Emberiza spodocephala personata* Temminck

四月中旬に現はる。多数、夏期蕃殖期以外は90%植物性食物。

ホホジロ *Emberiza cioides ciopsis* Bonaparte

四月中旬に見る。少数、主として昆蟲を食ふ。

ホホアカ *Emberiza fucata fucata* Pallas

五月上旬に見る。稍多数、夏期は昆蟲なるも草實、穀物をも食ふ。

雲雀科 *Alaudidae*

ヒバリ *Alauda arvensis japonica* Temminck & Schlegel

四月積雪ある時より十月中旬迄林縁に棲息。多数、昆蟲及雑草の種子を食ふ。

鶺鴒科 *Motacillidae*

ビンズイ *Anthus hodgsoni berezowskii* Sarudny

四月下旬一十月中旬、少数、主として昆蟲、クモ類、僅かに種子を食ふ。

ハクセキレイ *Motacilla alba lugens* Kittlitz

三月下旬一十月中旬、稍多数、昆蟲類を食ふ。

キセキレイ *Motacilla cinerea caspica* (S. G. Gmelin)

五月中旬一十月中旬、少数、昆蟲類を食ふ。

五十雀科 *Sittidae*

シロハラゴジフカラ *Sitta europaea clara* Stejneger

四季棲息、稍多数、主として昆蟲を食ひ稀に果實、穀物を食ふ。

四十雀科 *Paridae*

シジフカラ *Parus major minor* Temminck & Schlegel

四季棲息、稍多数、主として昆蟲を食ひ往々雑草の種子及穀物を食ふ。

コガラ *Parus atricapillus restrictus* Hellmayr

四季棲息、稍多数、主として昆蟲食、稀に種子を食ふ。

ヤマガラ *Parus varius varius* Temminck & Schlegel

四季棲息、稍多数、主として昆蟲食、稀に果實を食ふ。

ヒガラ *Parus ater insularis* Hellmayr

四季棲息、多数、主として昆蟲を食ひ、往々種子を啄む。

シマエナガ *Aegithalos caudatus japonicus* Parazik

四季棲息、多数、食餌コガラに同じ。

キクイタダキ *Regulus regulus japonensis* Blakiston

四月中旬に少数を見る。主として昆蟲類を食ふ。

鷲科 *Laniidae*

モズ *Lanius bucephalus* Temminck & Schlegel

四月一十月、多数、昆蟲類、蛙、小禽類を食ふ。

鶇科 *Brachypodidae*

エゾヒヨドリ *Microscelis amaurotis hensoni* (Stejneger)

四季棲息、稍多数、植物の實、昆蟲、クモ類を食ふ。

鶇科 *Muscicapidae*

サメビタキ *Hemichelidon sibirica sibirica* (Gmelin)

極めて少数、昆蟲食。

キビタキ *Zanthopygia narcissina narcissina* (Temminck)

四月一十一月、多数、主として昆虫食。

オ ホ ル リ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana* (Temminck)

五月中旬に見た。少数、昆虫食。

鶯 科 *Sylviidae*

ウ グ ヒ ス *Horeites cantans cantans* (Temminck & Schlegel)

五月一十一月上旬、稍多数、昆虫食。

シ フ サ ザ イ *Urosphena squameiceps squameiceps* (Swinhoe)

五月中旬に見た。稍多数、昆虫食。(別名カハリウグヒス、又はヤブサメ)

オ ホ ヨ シ キ リ *Acrocephalus stentoreus orientalis* (Temminck & Schlegel)

五月下旬に見た。稍多数、昆虫食。

鶉 科 *Turdidae*

ト ラ ツ グ ミ *Turdus aureus Holandre*

四月下旬一十月、少数、昆虫と僅かに樹果を食ふ。

ク ロ ツ グ ミ *Turdus cardis cardis* Temminck

五月上旬一十月中旬、稍多数、トラツグミと同じ食物。

シ ロ ハ ラ *Turdus pallidus Gmelin*

五月上旬一十一月上旬、少数、食物上に同じ。

マ ミ チ ヤ ジ ナ イ *Turdus obscurus obscurus* Gmelin

五月上旬一十一月上旬、稍多数、食物同上。

ア カ ハ ラ *Turdus chrysolaus chrysolaus* Temminck

五月上旬一十月下旬、稍多数、食物同上。

ツ グ ミ *Turdus eunomus* Temminck

山田氏観察。

ノ ビ タ キ *Saxicola torquata stejnegeri* (Parrot)

五月下旬一十月下旬、多数、昆虫食。

ル リ ビ タ キ *Ianthia cyanura cyanura* (Pallas)

四月下旬に見た。多数(五月中旬より見られない)、昆虫食。

ノ ゴ マ *Luscinia calliope calliopea* (Pallas)

五月下旬に見た。少数、昆虫食。

鶇 鶇 科 *Troglodytidae*

ミ ソ サ ザ イ *Troglodytes troglodytes fumigatus* Temminck

冬期及十一月上旬、多数、昆虫、クモを食ふ。

燕 科 *Hirundinidae*

ツ バ メ *Hirundo rustica gutturalis* Scopoli

五月下旬一九月下旬、少数、昆虫食。

怪 鶇 目 *Caprimulgi*

怪 鶇 科 *Caprimulgidae*

ヨ タ カ *Caprimulgus indicus jotaka* Temminck, & Schlegel.

六月下旬一十月下旬、少数、蛾類、蚊、甲蟲類を食ふ。

翡翠 目 *Halcyones*

翡翠 科 *Alcedinidae*

カ ハ セ ミ *Alcedo atthis japonica* Bonaparte

夏期多数、水棲動物。

ア カ セ ウ ビ ン *Halcyon coromanda major* (Temminck & Schlegel)

四月下旬から現はれる。少数、水棲動物。

啄 木 鳥 目 *Pici*

啄 木 鳥 科 *Picidae*

ヤ マ ゲ ラ *Picus canus jessoensis* Stejneger

四季棲息、稍多数、昆虫及びクモを食ふ。

エ ゾ ア カ ゲ ラ *Dryobates major japonicus* (Seeborn)

同 上

エ ゾ オ ホ ア カ ゲ ラ *Dryobates leucotos subcirris* Stejneger

同 上

エゾコゲラ *Dryobates kizuki seebohmi* (Hargitt)

同 上

クマゲラ *Dryocopus martius martius* (Linnaeus)

四季棲息、少数、昆虫及びクモを食す。

アリスヒ *Jynx torquilla japonica* Bonaparte

五月下旬に見た。少数、昆虫及びクモを食す。

杜鵑目 *Cuculi*杜鵑科 *Cuculidae*クワクコウ *Cuculus canorus telephonus* Heine

五月下旬—十月下旬、稍多数、昆虫特に毛蟲を食す。

ツツドリ *Cuculus optatus optatus* Gould

同 上

梟鴞目 *Striges*梟鴞科 *Strigidae*オホコノハヅク *Otus bakkamoena semitorques* Temminck & Schlegel

四季棲息、少数、昆虫、鼠及び小鳥を食ふ。

アヲバヅワ *Ninox scutulata scutulata* (Raffles)

六月下旬に目撃す。少数、昆虫、小鳥、鼠その他小動物を食ふ。

鷲鷹目 *Accipitres*鷲鷹科 *Falconidae*ハイタカ? *Accipiter nisus nisosimilis* (Tickell)オホタカ *A. gentilis schvedowi* (Menzbier) か目下調査中。トビ *Milvus migrans lineatus* (Gray)

四季棲息、少数、昆虫、鼠、魚等を食ふ。

鶴鷺目 *Gressores*鷺科 *Ardeidae*アヲサギ *Ardea cinerea rectirostris* Gould

五月上旬—十月下旬、少数、昆虫、魚、蛙等を食す。

雁鴨目 *Anseres*雁鴨科 *Anatidae*マガモ *Anas platyrhynchos platyrhynchos* Linnaeus

四月—十一月、少数、穀物等を主とした植物性食、往々魚類、ザリガニ、モノアラガヒ等を食ふ。

コガモ *Querquedula crecca crecca* (Linnaeus)

同 上

オシドリ *Aix galericulata* (Linnaeus)

同 上

阿比目 *Pygopodes*鷺鷥科 *Podicipidae*カイツブリ *Podiceps ruficollis japonicus* Hartert

同 上

鳩鴿目 *Columbae*鳩鴿科 *Columbidae*キジバト *Streptopelia orientalis orientalis* (Latham)

四季棲息、多数、穀物、種子及び木の芽を食す。

アヲバト *Sphenocercus sieboldii sieboldii* (Temminck)

六月上旬、数羽の群を見たのみ。

鵲目 *Limicolae*

鷺 科 Scolopacidae

ヤマシギ *Scolopax rusticola* Linnaeus

五月上旬に少数を見た。昆虫食。

鶴 目 Alectorides

秧 鷄 目 Rallidae

クヒナ *Rallus aquaticus indicus* Blyth

五月上旬に少数を見た。

鷄 目 Galli

松 鷄 科 Tetraonidae

エゾライテフ *Tetrastes bonasia vicinitas* Riley

四季棲息、稍多数、木の芽、蕾、笹の筍、種子、果實を食ふ。

雉 科 Phasianidae

カウライキジ *Phasianus colchicus karpowi* Buturlin

雌雄三對を北海道帝國大學農學部附屬博物館より持參して、國有林の北部に當る4林班に放飼した。昭和八年十一月二十五日のことである。その後同年十二月及昭和九年二月と二回に互り林外に出て農家の納屋に入りしことあり。又同年六月十日造林地内にて凍死したと斷定し得る雄の屍を發見した。恐らく冬の積雪のため越冬困難と思はれる。

鳥類繁殖狀況

野幌國有林内に野生に繁殖する鳥類は、今迄の觀察により39種丈であつたが、猶今後多數に上る可く、巢箱中のものに就ては後に記する。

I. 高所に営巢するもの

a. キジバト

可成り早期から営巢繁殖し、未だ林内には残雪が深い頃に抱卵せるものを發見した。巢の高さは



26. キジバトの巢卵

區々で1米から15米位の間に多く営巢して居る。卵は普通2箇で稀に1箇のものもある。巢材は其の営巢附近の細い枯枝を集め、到つて粗雑で、落葉松林、ヒバ、トド松林内に営巢する。往々巢外に落卵することがあり林内に於て2箇拾得したことがある。

巢の大きさ、卵の大きさの一例を挙げると産座の直徑10センチ、卵の長徑3センチ、短徑2.3センチで、巢は地上からの高さ95センチ、竹藪中の

ヒバの下枝に営巢してゐたものである。

b. ゴジユウカラ

鳩よりは遅いが可成り早期から営巢繁殖する。多く澤に面したカツラ、アサダ、ヤチダモ、サハシバ等の大木の穴の開いた中に繁殖する。一般に非常に高く常に15—20米にある。雌雄共に営巢し枯葉の如きものを盛んに運ぶのを見た。自然にある穴に加工するか否かは明かでないが、觀察によれば加工されてゐないらしい。穴の方向は皆一様に少々下向きの所を撰んで居る。

c. トラツグミ

潤葉樹林内に営巢する3巢を觀察したが、アカイタヤ、トド松の折株、樹種不明であるが矢張り折株上にあり、土臺は水苔を用ひ産座には草の細根、枯葉、シダの枯葉等が用ひられてゐる。卵は4箇で地色が緑がかつた青味を呈し薄き褐色斑紋が一様に見られる。巢の測定をして見ると

内	徑	13種	12種
外	徑	24種	30種
深	さ	5種	5種
地上からの高さ		1.80米	10米

であり、三者共似通つて居る。

卵の測定は1巢に就て行つたが、

短	徑	2.5種	2.4種	2.4種	2.4種	2.4種
長	徑	3.4種	3.3種	3.5種	3.35種	3.4種

最後の1卵は巢發見の際、1卵抜き取つて置いたものに追加産卵されたもので斑紋非常に濃く、且

(24)

明瞭であつた。巢立には12—14日間を要するもので、2巢からは各々2羽づつ巢立した。



27. トラツグミの巢のある朽木
(中央の人物の向つて左の朽木の頂×)



29. トラツグミの巢
側面から見たところ(中央×)



28. 同上トラツグミの巢を
上から見たところ



30. 同上トラツグミの巢、卵、
雛を真上から見たところ

d. オホタカ? (ハイタカ?)

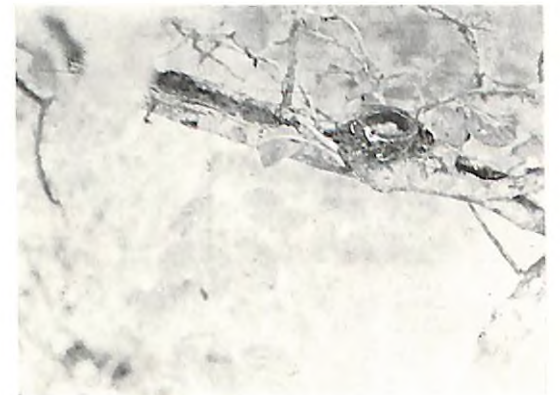
試験場建物附近林縁から遠くないトド松の幹の曲つてゐるところに営巣してゐる。巢は膨大なもので古巢の上に新しく今年の営巣がなされたものの様で、トド松の枯枝を主として用ひてゐる。産座にはイヌガヤを用ひて居り、少々青味がかつた卵4箇を見た。地上約15米で附近はトド松と潤葉樹の大木の混淆林になつて居り、深い澤が三方に入り込み一つの高臺の様な地形を呈してゐる。孵化日数は最後の卵の日(始めに卵ある時に発見し更に後2卵増加された)から数へて56日で、此頃

(25)



31. オホタカの巢卵

一例は地上20米位の高度でトド松に倒れかゝつたシナノ木の二又になつた所に営巣してゐた。発見した時は、孵化したばかりで、発見の日から約二週間目に巢立した。巢は土臺は水苔で作り、産座には草の細根、トド松の枯葉、潤葉樹の枯葉を用ひて居る。巢の内径は9寸、深さ4寸、外形12寸程であつた。4雛で4雛共に巢立した。巢の地上からの高さは區々で1米から20米位までである。発見した所は毎日の如く、人が來て可成り騒々しい所である。山田氏は産卵數5箇を見てゐる。



32. クロツグミの巢雛

f. コガラ

巢箱によく営巣するが、それ以外澤の中の高れたトド松の絶頂附近、地上から10米位の所の洞の中に営巣してゐる。五月中旬に盛んに親の送餌してゐるのを見受けた。コガラは自分で穴を穿つこともあるらしく、盛んに嘴で木を啄き穴を作つて居るのを見た。又コゲラの巢跡に営巣する場合もあるらしい。



33. 中央トド松の枯木頂
附近のコガラの営巣

g. エリアカゲラ

枯木に穴を穿つて営巣する。樹種も多くはトド松であるがサハシバにも営巣して居るのを見た。穴は地上から6—7米位の所に一番多く、地上9米位の所に盛んに営巣してゐるのを観察したことがある。又非常に高い所でも営巣する。個體數も多くこの林内には良く繁殖するらしい。

h. エゾオホアカゲラ

大體エゾアカゲラと同じ様な所に営巣するが、数は前者より少い。

i. エゾコゲラ



34. コゲラの営巣箇所



35. コゲラの巣

割合に営巣場所の発見し難い鳥で、唯一巣を発見したのみである。澤の中の傾斜地にある枯木に営巣し、入口までの高さ(垂直高さ)2.70米、入口の直径4 ㎝、木の太さ65 ㎝であつた。下地にはチマキザサ、ミズバセウ等が密生し、トド松、潤葉樹の混淆林内である。

j. キビタキ

潤葉樹林内で多く営巣するものの如く、唯一巣発見することが出来た。道路傍のトド松の樹皮の間に営巣し、地上から160 ㎝の高さである。巢材は外圍には潤葉樹の枯葉を用ひ、産座には草の細根、馬尾毛を用ひて居る。

36. キビタキの巣
枝の少し上位、樹皮の脱げた箇所

37. キビタキの営巣したトド松及び附近

卵の測定をして見ると

長	葎	1.8 ㎝	1.8 ㎝	1.8 ㎝	1.85 ㎝	1.8 ㎝	1.8 ㎝
短	徑	1.4 ㎝	1.35 ㎝	1.4 ㎝	1.35 ㎝	1.35 ㎝	1.35 ㎝

であり、卵は白色地に不判明な型の褐色斑紋が鈍端に多くある。巢は位置の関係上長方形をなして居た。巢は長方形でも産座は圓形で深い碗形をして居り、内徑5.3 ㎝である。

尚ほ巢箱に入ることもありこの時は、5 卵で巢は外圍即ち土臺には水苔を用ひ、産座には枯草、草の細根が用ひられて居た。

k. ハシボソガラス

トド松又はサハシバの如き比較的大木に営巣する。餘り多く見られない。巢も比較的粗雑で太い枯枝を土臺に用ひて、産座には馬の毛等を用ひてゐる様である。馬の背中に止つて毛を嘴一杯に啄み飛びさるのを目撃した。

l. トビ

大木の三叉に多く営巣する。貯水池の邊又は林縁で発見された。巢材には矢張り枯枝を用ひ可成り大きな巢である。2 箇あるも共にサハシバの大木の上であつた。

m. シジュウカラ

巢箱に最も良く入るもので、自然に於ては針葉樹林中にある、潤葉樹の裂目等に営巣するらしく、可成り高い所に営巣する。山田氏によれば卵数は9—13 箇である。

n. ヤマガラ

大體シジュウカラと同一であるが、ヤマガラは深林中に営巣する性質を有つてゐる。巢箱に入つたものより考察すると、薄暗い密林中に営巣することは確實である。

o. ムクドリ

林縁近くの枯木の穴等に多數営巣繁殖して居る。場所は殆ど所構はず撰んで営巣する様で、高さは一體に高い所を撰ぶ。巢材には、ワラ、雞の羽毛等が主で、比較的粗雑である。巢箱にもよく入る。採餌は主に農耕地で、鋤で土を起してゐる後からついて歩き餌を探して運んで居る。1 腹5—6 卵で、青味がかつた美麗な卵である。繁殖も長期間行つて居り、造巢を始めるのも早期の方である。

六月下旬になると巣立したものが集り群をなして飛んで居る。

p. コムクドリ

ムクドリよりも少々後れて営巣繁殖し始める。場所は一般に撰ばないが、多くは木の穴等で、軒、屋根裏、煙突内にも営巣する。巢材も色々で、ワラ、枯草が主である。高さはムクドリも低目の所を好む。卵は5—6卵で青味がかつた卵である。

q. エナガ

澤に面した傾斜地のサハシバの15米位の所の三又枝に営巣して居り、雄雌で盛に巢材を運んで居るのを見た。他所にて採集したものによると、巢材は蜘蛛の巣で鳥の羽毛又は苔等を綴り合せ、巢穴は縦に細長くなつて居る。非常に美しいものである。

II. 低地に営巣するもの

a. オホルリ



38. オホルリの営巣箇所
(写真中央のシダの陰)

深い澤の狭まつた所で倒木の水苔で覆はれて居る蔭の土中に営巣されて居た。潤葉樹の非常な密林の爲め暗く土手の中腹の湿つた場所である。巢材は全部水苔で、産座には水苔の花杣を用ひてある。内径5匁、深さ3.5匁で、外周陥凹形をなし22—23匁位の大きさである。3雛と1無精卵とで卵は黄味がかつた白色地をなし斑紋がない。発見したものは古くなつたものであるから明瞭には解らない。短径1.6匁、長径1.9匁である。

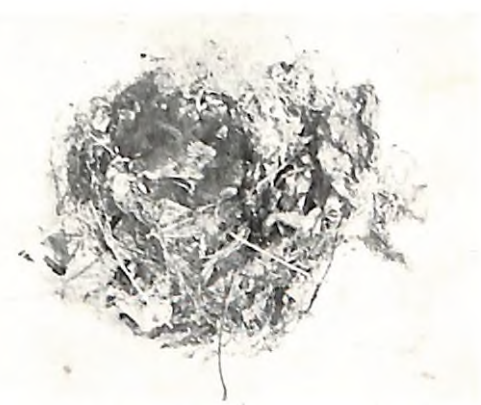
b. ヤブサメ (シヲサバイ)

傾斜地で、イヌガヤ、シダ、チマキザサ等の密生して居り、落枯葉の厚く積つた所の木の根の隙間等の地上に営巣してゐる。巢は上向きで、大體潤葉樹の枯葉で作られ、蟲により脈丈けになつた軟かい枯葉を多く用ひて居る。観察したのはアヲダモの根下に営巣されて居り、6雛で巢の大きさは内径6匁、外径11.6匁である。巢材には尚ほ草の細根、ネズミの毛、兎の毛、水苔等少量用ひら

れて居る。産座には毛糸の如きものが用ひられてゐた。



39. ヤブサメ (シヲサバイ) の営巣箇所



40. ヤブサメの巣雛

c. ヤマシギ



41. ヤマシギの巣及卵

チマキ笹の藪の少々疎な所でトド松林との境に営巣してゐる。下地は乾燥して居り少々巢の様式をなす粗末なもので、卵は4箇で内1箇は破壊され観察し得たのは3箇である。両端の差著しく汚褐色地に濃淡の汚褐色斑紋あり鈍端に多い。

長 径	4.5匁	4.4匁	4.5匁
短 径	3.4匁	3.4匁	3.4匁

巢は殆ど形ばかりで、浅い碗形をなし、枯葉を材料として用ひ、内径1.3匁である。

d. ヨタカ

晝間は林中の暗所に棲み、夕暮に出て食を求める。巢はホホ、ミズナラ、シコロ、メダラ等の密生地でもトド松の稚樹が生え下にイヌガヤ、ユヅリハ等が混生してゐる所にあつた。巢型は極めて不規則で、殆ど形態を具へず、地上のミズナラの枯葉の上に産卵したと思はれる。六月下旬に巢中に2雛が漸く歩き得る程度に發育してゐたのを発見した。

III. 林縁及び農耕地にて営巣繁殖するもの

a. モズ

灌木林、笹藪等内に営巣する。高さも80㎝から2米内外迄で、餘り高所には巢を作らない。卵は



42. モズの巢

6卵で、緑青色の薄色の地に濃褐色の斑紋あり、鈍端に多い。卵の大きさは、

長 径	2.5㎝	2.45㎝	2.5㎝
	2.45㎝	2.4㎝	2.3㎝
短 径	1.85㎝	1.85㎝	1.85㎝
	1.85㎝	1.8㎝	1.7㎝

である。

巢材は大體附近にあるものであるが、一例を見

ると外巢は落葉松の枝、ツル、ワラ、木の根等を

用ひ、産座には綿、紙、雞の羽毛、枯草、馬尾毛等を用ひて居る。内径は8.5㎝、外径1.27㎝で深さは4.7㎝である。

b. ホホジロ

タウヒの稚樹の下枝に営巣されあるのを観察した。地上から50㎝の高さの所に営巣し、附近は笹、フキが密生し完全に蔭覆されて居る。巢材は外縁は竹の根、草の根、禾本科植物の枯葉で作られ、内部は草、竹の細根で作られ、馬尾毛を用ひて居る。内径6㎝、深さ5.5㎝、外径9.5㎝である。卵は5箇。

長 径	2.2㎝	2.1㎝	2.0㎝	2.0㎝	2.1㎝
短 径	1.6㎝	1.6㎝	1.6㎝	1.7㎝	1.6㎝



43. ホホジロの巢及び卵

である。

c. アラチ

落葉松の疎林内のフキの下に営巣して居り、発見と同時に6雛が巢立した。巢は産座に馬尾毛を

用ひ、外圍は藁、禾本科植物の枯葉等を用ひて居る。鐵道防雪林中にもあり。

d. スズメ

到る所の農家の納屋、人家の軒、屋根裏等にて営巣繁殖して居る。啄木鳥の開けた電信柱の穴へ営巣して居るものがあった。



44. 電柱のスズメの巢

e. ハクセキレイ

畑地で繁殖するもので、農家の屋根等を撰び、一例は農家の

肥料小屋の縁に営巣し、4雛で、巢材には外圍に枯葉、藁を用ひ、産座には馬尾毛を用ひて居た。

f. オホヨシギリ

比較的人家附近の湿地のヨシ又はオニシモツケの密生して居る中に営巣する。地上からの高さは大體一定して居り、80㎝前後で三枝を巧みに縫ひ合はせて造巢する。観察したのは笹の密生して居る中に発見したもので地上から80㎝、巢材は内部



45. ハクセキレイの営巣した肥料小屋(×の上部)

には禾本科植物でカモガヤ等が用ひてあり、外部は竹の細根、竹の枯葉、禾本科植物の枯葉、綿を用ひてある。巢の内径は5.5㎝、外径8.85—6.5㎝である。卵は3箇で、山川氏は4例を見4—5箇の卵を見た。

長 径	2.1㎝	2.0㎝	2.1㎝
短 径	1.65㎝	1.65㎝	1.65㎝



46. オホヨシギリの巢

g. ホホアカ

畑又は牧草地に営巣産卵する。卵は4箇汚灰色の地に濃褐色の斑紋あり鈍端に多い。雄は常に遠く離れて轉り、巢に近寄らない。巢は草等の根株の蔭に作り、外圍は枯草の莖と細根、竹の枯葉で



47. ホ、アカの巣卵

作り、産座には草の細根の上に更に馬尾毛を敷いて居る。卵の大きさは

長 径 1.95 1.90 1.9 1.9

短 径 1.6 1.6 1.6 1.5

で4箇あつた。

巢は内径6 1/2 寸、外径9.2 寸、深さ5.5 寸である。

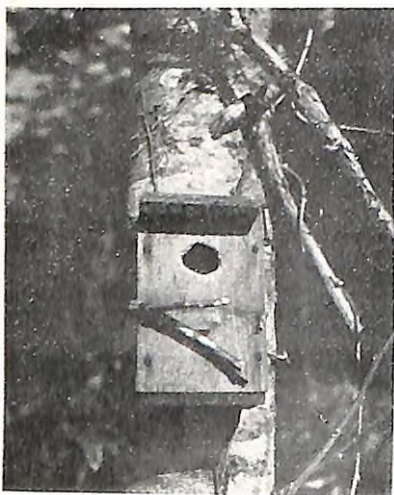
以上の外に繁殖する事の明かなものは、山田氏の調査等よりアカセウビン、カハセミ、エゾライテ

フ、ミヤマカケス、エゾヒヨドリ、ヤマゲラ、クマゲラ、ヒバリ、アリスイ、アカハラ、ウグヒス等である。

林内に於ける巣箱

野幌林業試験場は昭和六年五月に100 箇の人工巣箱を第1、第2、第3、第4、第5、第6 林班に、中央道路及び歩道を中心に左右30 米以内に架設した。

巣箱の形式、架設状態等は他日機会を見て報告しやうと思ふ。昭和八年十一月と十二月に、更に第1 林班内の歩道を中心に澤又は丘陵地の中腹等に50 米以内と、第1 林班及び第2 林班の林縁とに合計45 箇を増設した。



49. エゾモ、ンガが噛み
擴げた巣箱の入口

巣箱は夏期繁殖する鳥類のため與へるが、近時冬期留鳥に利用されることも発見せられたのである。野幌國有林中に於ける巣箱が野

鳥の繁殖のため利用された率は13.6%で、猶ほ將來の研究により利用率は林内に繁殖してゐる鳥類の数から見れば相當に高め得ることと思ふ。

余は上記の巣箱に就て、晩秋の巢立後のものと、早春利用前のものと、初夏の利用中のものと三回の觀察をなし、目下



48. 澤に面した斜面中腹
に架設した巣箱

尚ほ觀察繼續中であるが、今迄の結果を報告すると次の如くである。

第一回調査

昭和八年十一月二十六日より十二月二日に亘り、昭和六年度に架設したものを調査した。架設した樹木の枯倒、風、或は巣箱の腐朽其他のため巣箱の紛失したものは20 箇であつた。残り80 箇の中13 箇中には、エゾモ、ンガが入つてゐた。モ、ンガが入つてゐる巣箱は、筒型のものが多く、その冬籠りのため樹皮、サルオガセ、水苔、枯草等で碗形の巢を作つて中に潜むもので、態々入口を噛み擴げて入つてゐたものもあつた。

第二回調査

昭和九年四月十七日—四月二十一日の間に、前回のものに昭和八年に架設したものを加へて調査した。モ、ンガの入つたもの15 箇、留鳥が避寒のため入つた形跡として中に多量の鳥糞の發見されたものは7 箇あつた。

第三回調査

昭和九年六月九日—十一日に調査した。この時迄に巣箱を利用して入つた鳥類は、シジュウカラ9 箇、ムクドリ4 箇、ヤマガラ1 箇、キビタキ1 箇、モ、ンガ6 箇、蜂が入つて巢を作つたもの5 箇と營巢準備中のもの數箇あつた。モ、ンガは巣箱の中で仔を産むこともあるらしい。

昭和九年四年には造巢材料として菌類培養に用ひた褐色の綿を林内に撒き給與したが、ヤマガラと外一箇不明の鳥の巢は、産座は悉くこの綿で外の巢にも殆ど全部多少の程度に於てこれを用ひてゐた。一般に營巢材料は産座に綿、モ、ンガの毛、馬尾毛を用ひ、基礎に水苔が多く用ひられる。只キビタキは産座に綿を用ふことなく枯葉の柔軟なもの、細い根、蟬の翅等を用ひてゐた。ハシボソガラス等は林外の農家の馬脊に上り毛を抜き去つて産座に用ひる。

この國有林内の巣箱利用の障害を考察するに、第一に三月下旬の鳥類渡來期に伐採、手入等で人の出入頻繁のために恐怖をなすことが理由ともなるが、第二にモ、ンガが本國有林中では最も障害をなし、抱卵中又は産卵途中で、モ、ンガの襲撃を受けた形跡のものがあつた。冬期に豫めモ、ンガを驅逐しておいても春再び入るものがある。第三はカラス及びカケスで、特にカラスは一度鳥の入つた巣箱を外から破壊して中を荒すことが屢々あることは他に例を見ない障害である。(昭和九年六月二十九日)

和 名 索 引

ア

ア イ サ	12
アチダイシヤウ	7
アカセウビン	3, 19, 32
アカハラ	14, 18, 32
ア ト リ	13, 16
阿比目	21
アマガヘル	6
アリスヒ	20, 32
アチサギ	21
アチザ	11, 14, 16, 30
アチバト	21
アチバヅク	20

イ

イ カ ル	15
イ ス カ	16
イ タ チ	10
イ ト ヨ	4

ウ

鶯 科	18
ウグヒス	18, 32
鶉 雞 目	22
ウ ソ	16

エ

エゾアカガヘル	6
エゾアカゲラ	13, 19, 25
エゾイタチ	11
エゾオホアカゲラ	13, 14, 19, 26
エゾコゲラ	13, 20, 26
エゾサンセウウチ	5
エゾタヌキ	10
エゾトガリネズミ	10
エゾトミヨ	5
エゾドクヨオ	4
エゾノウサギ	9
エゾハシブトガラス	15

エゾヒメネズミ	8
エゾヒヨドリ	13, 17
エゾモモンガ	9, 33
エゾヤチネズミ	8
エゾリス	9
エゾライテフ	22, 32
エナガ	28
燕 雀 目	15

オ

オシドリ	12, 21
オホカハラヒワ	15
オホコノハヅク	20
オホタカ	20, 24
オホヨシキリ	12, 18, 31
オホルリ	18, 28

カ

鷺 鷥 科	21
カイツブリ	12, 21
カウライキジ	22
カケス	13
カナヘビ	6
翡翠目	19
翡翠科	19
カハセミ	13, 19
カハラヒワ	32
鴉 科	15
カラス	33
雁 鴨 目	21
雁 鴨 科	21

キ

キクイタダキ	17
キセキレイ	16
雉 科	22
キシバト	13, 14, 21, 22
啄木鳥目	19
啄木鳥科	19
キ ツ ネ	10

魚 類	3
キビタキ	17, 26, 33

ク

秧 雞 目	22
ク ヒ ナ	22
熊	7
ク マ ゲ ラ	20, 32
クワクワウ	20
クロツグミ	18, 25

コ

コエゾイタチ	11
コ ガ モ	12, 21
コ ガ ラ	13, 17, 25
五十雀科	17
ゴジユウカラ	23
コムクドリ	15, 28
鶴 鷺 目	20

サ

鷺 科	20
サメビタキ	17

シ

鷓 目	21
鷓 科	21
四十雀科	17
シジユフカラ	13, 17, 27
シマヘビ	7
シマエナガ	13, 17
シ メ	13, 15
シロハラ	18
シロハラゴジユフカラ	13, 17, 33
シナサザイ	18, 28

ス

雀 科	15
ス バ メ	13, 16, 31
スナヤツメ	3

セ

鵲 鷓 科	16
セグロセキレイ	13

チ

鳥 類	11
鳥類繁殖状況	22
チムグリ	7

ツ

鷓 科	18
ツ グ ミ	13, 18
ツツドリ	20
燕 科	19
ツ バ メ	19
鶴 目	22

ト

ト カ ゲ	6
ト ビ	13, 20, 27
トブネズミ	8
トラツグミ	14, 18, 23

ノ

ノ ゴ マ	18
ノビタキ	18

ハ

鳩 鷓 目	21
鳩 鷓 科	21
ハイタカ	20, 24
ハクセキレイ	16, 31
ハシホソガラス	13, 15, 27
爬 蟲 類	6
ハツカネズミ	8

ヒ

ヒ ガ ラ	13, 17
鷓 科	17
ヒ タ キ	11
雲 雀 科	16
ヒ バ リ	16, 32
ビンズイ	16
ヒ ヲ	13
鴨 科	17

フ

梟 鷓 目	20
梟 鷓 科	20
フ ク ロ ウ	13
フクドサヨオ	4
フ ナ	4

ヘ

ベニマシコ	16
-------	----

ホ

杜 鵑 目	20
杜 鵑 科	20
ホホジロ	14, 16, 30
ホホアカ	16, 31
哺 乳 類	7

マ

マ ガ モ	12, 21
マ シ コ	11
マ ヒ ヲ	11, 13, 15
マミチヤジナイ	18
マ ム シ	7

ミ

鷓 鷓 科	19
ミソサザイ	13, 19
ミヤマカケス	13, 15, 32

ム

椋 鳥 科	15
ムクドリ	13, 15, 27, 33

モ

鷓 科	17
モ ズ	17, 30

ヤ

ヤブサメ	28
ヤマガラ	13, 19, 27, 33
ヤマゲラ	13, 19, 32
ヤマシギ	22, 29

ヨ

怪 鷓 目	19
怪 鷓 科	19
ヨ タ カ	19, 29

ラ

松 鷓 科	22
-------	----

リ

兩 棲 類	5
-------	---

ル

ルリビタキ	18
-------	----

ワ

鷺 鷓 目	20
鷺 鷓 科	20

學名索引

A

Accipitres	20
Accipiter gentilis schvedowi	20
Accipiter nisus nisosimilis	20
Acrocephalus stentoreus orientalis	18
Aegithalos caudatus japonicus	17
Alaudidae	16
Alauda arvensis japonica	16
Alcedinidae	19
Alcedo atthis japonica	19
Alectorides	22
Anatidae	21
Anas platyrhynchos platyrhynchos	21
Anseres	21
Anthus hodgsoni berezowskii	16
Ancistredon blomhoffii	7
Apodemus geisha hokkaidi	8
Ardeidae	21
Ardea cinerea rectirostris	21
Aix galericulata	21

B

Brachypodidae	17
---------------	----

C

Carassius auratus	4
Carduelis spinus	15
Caprimulgi	19
Caprimulgidae	19
Caprimulgus indicus jotaka	19
Chloris sinica kawarabiba	15
Clethrionomys rufocanus bedfordiae	8
Cuculi	20
Cuculidae	20
Cuculus canorus telephonus	20
Cuculus optatus optatus	20
Coccothraustes coccothraustes japonicus	15
Columbae	21
Columbidae	21

Corvidae	15
Corvus corone corone	15
Corvus coronoides japonensis	15
Cyanoptila cyanomelana cyanomelana	18

D

Dryobates kizuki seebohmi	20
Dryobates leucotos subcirris	19
Dryobates major japonicus	19
Dryocopus martius martius	20

E

Elaphe climacophora	7
Elaphe conspicillata	7
Elaphe quadrivirgata	7
Emberiza cioides ciopsis	16
Emberiza fucata fucata	16
Emberiza spodocephala personata	16
Eophona personata personata	15
Eumeces latiscutatus	7

F

Falconidae	20
Fringillidae	15
Fringilla montifringilla	16

G

Galli	22
Garrulus glandarius pallidifrons	15
Gasterosteus aculeatus aculeatus	4
Gressores	21

H

Halcyones	19
Halcyon coromanda major	19
Hemichelidon sibirica sibirica	17
Hirundinidae	19
Hirundo rustica gutturalis	19
Horeites cantans cantans	18
Hyla arborea japonica	6

Hynobius retardatus	5
---------------------	---

I

Ianthia cyanura cyanura	18
-------------------------	----

J

Jynx torquilla japonica	20
-------------------------	----

L

Lampetra mitsukurii	3
Laniidae	17
Lanius bucephalus	17
Lefua nikkonis	4
Lepus ainu	9
Limicolae	21
Loxia curvirostra japonica	16
Luscinia calliope calliopea	18

M

Milvus migrans lineatus	20
Microscelis amaurotis hensoni	17
Motacillidae	16
Motacilla alba lugens	16
Motacilla cinerea caspica	16
Mus molossinus	8
Muscicapidae	17
Mustela erminea kanei	11
Mustela itatsi itatsi	10
Mustela rixosa namiyei	11

N

Ninox scutulata scutulata	20
Nyctereutes albus	10

O

Oreias oreas	4
Otus bakkamoena semitorques	20

P

Passeres	15
Passer montanus saturatus	16
Paridae	17
Parus ater insularis	17
Parus atricapillus restrictus	17

Parus major minor	17
Parus varius varius	17
Phasianidae	22
Phasianus colchicus karpowi	22
Pici	19
Picidae	19
Picus canus jessoensis	19
Podicipidae	21
Podiceps ruficollis japonicus	21
Pongitius tymensis	5
Purrrhula pyrrhura griseiventris	16
Fygopcdes	21

Q

Querquedula crecca crecca	21
---------------------------	----

R

Rallidae	22
Rallus aquaticus indicus	22
Rana temporaria	6
Rattus norvegicus	8
Regulus regulus japonensis	17

S

Saxicola torquata stejnegeri	18
Sciurus vulgaris orientalis	9
Sciuropterus russicus orii	9
Scolopacidae	22
Scolopax rusticola	22
Sittidae	17
Sitta europaea clara	17
Sorex shinto saevus	10
Sphenocercus sieboldii sieboldii	21
Spodiopsar cinereus	15
Streptopelia orientalis orientalis	21
Striges	20
Strigidae	20
Sturnidae	15
Sturnia philippensis	15
Sylviidae	18

T

Takydromus tachydromoides	6
Tetraonidae	22

(40)

Tetrastes bonasia vicinitas	22
Troglodytidae	19
Troglodytes troglodytes fumigatus	19
Turdidae	18
Turdus aureus	18
Turdus cardis cardis	18
Turdus chrysolaus chrysolaus	18
Turdus eunomus	18
Turdus obscurus obscurus	18
Turdus pallidus	18

U

Uragap sibiricus sanguinolentus	16
Urosdhena squameiceps squameiceps	18

V

Vulpes japonicus	10
------------------------	----

Z

Zanthopygia narcissina narcissina	17
---	----

昭和九年七月十三日印刷

昭和九年七月十五日發行

北海道林業試験場

印刷者 山中 次郎

札幌市北一條西三丁目二番地

印刷所 合名會社文榮堂印刷所

札幌市北一條西三丁目二番地